

RCC開局65年記念事業

後援/呉市、広島市
 広島県知事推奨
 文部科学省特別選定(青年向き、成人向き、家庭向き)
 文部科学省選定(少年向き)
 厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財
 厚生労働省社会保障審議会推薦

昭和20年、広島・呉。
 わたしはここで、生きている。



この世界の片隅に

©この史代・双葉社/「この世界の片隅に」製作委員会

作品 『この世界の片隅に』 **日時** 7月16日(日) 9:30~

会場 呉市立片山中学校 円形校舎 4階体育館

※作品のロケ地になったエリアにある学校です。(住所: 呉市東片山町13-5)

料金 おとな: 前売 1,000円 / 当日券 1,200円 (開場は30分前)
 こども: 前売 800円 / 当日券 1,000円 (上映時間 128分)

※こども料金は3歳から高校生までが対象となります。※チケットはすべて税込み価格となります。



※呉市内
 取扱い場所

- ◆ピッツァ ナリポ(東中央) 11:00-14:30, 17:30-22:00 定休日/ 日曜
- ◆ローカルズオンリー(中通2丁目) 11:00-20:00 定休日/ 火曜
- ◆樫本時計店(中通2丁目) 10:00-19:00 定休日/ 火曜
- ◆ほんまる珈琲(中通3丁目) 8:00-18:00 定休日/ 月曜, 第2日曜
- ◆文具のひろば ポプラドー(呉本通 四ツ道路) 9:15-19:00 祝祭日: 11:00-17:00 定休日/ 日曜
- ◆カフェ ザブリックス(幸町 呉市立美術館別館) 10:00-17:00 定休日/ 火曜
- ◆街かど市民ギャラリー(中通3丁目) 10:00-17:30 定休日/ 火曜

同時開催 片山中学校 円形校舎お別れ会

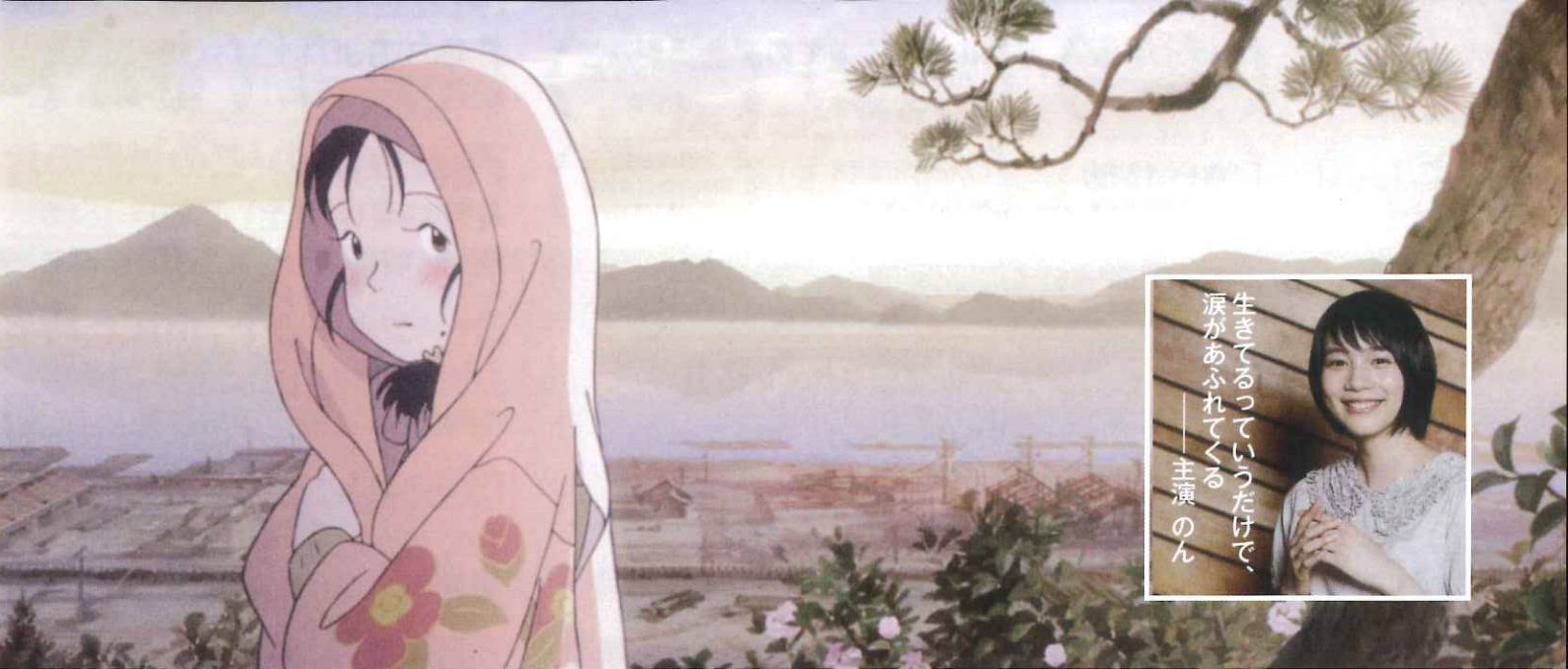
〈ドリンクなど有〉「さよなら、円形校舎」

- ・「あさまち」プロデュース OBOGによる校舎内マルシェ
- ・生徒による円形校舎スケッチ展
- ・円形校舎の歴史パネル展 など

9:00~14:00

主催: 「この世界の片隅に」呉上映実行委員会(中国放送・シネマキャラバンVAG)

お問い合わせ: NPO法人 呉サポートセンターくれシェンド ☎080-3893-4809(平日 9:00-18:00) 担当: 小野



生きてるっていうだけで、
涙があふれてくる
——主演のん

すずさんの世界を彩る女優・のん、音楽・コトリング

主人公すずさんを演じるのは女優・のん。片渚監督が「ほかには考えられない」と絶賛したその声でやさしく、柔らかく、すずさんに息を吹き込みました。すずさんを囲むキャラクターには細谷佳正、稲葉菜月、尾身美詞、小野大輔、潘めぐみ、岩井七世、牛山茂、新谷真弓ら実力派が集結。松竹新喜劇の座長・澁谷天外も特別出演しています。

本作の音楽はコトリングが担当。ナチュラルで柔らかい歌声と曲想が、すずさんの世界を優しく包みこみます。

監督・片渚須直×原作・この史代 —信頼しあう2人のタッグ 再び—

監督は片渚須直。第14回文化庁メディア芸術祭優秀賞受賞の前作『マイマイ新子と千年の魔法』(09)は観客の心に響き、異例の断続的ロングラン上映を達成しました。徹底した原作追及、資料探究、現地調査、ヒアリングを積み重ね、すずさんの生きた世界をリアルに活き活きと描き出した本作には紛れもなく今の私たちの毎日に連なる世界があります。

原作はこの史代。第13回メディア芸術祭マンガ部門優秀賞ほか各メディアのランキングでも第1位を獲得。綿密なリサーチによる膨大な情報と、マンガ表現への挑戦がさりげなく織り込まれており、その創作姿勢と高い完成度から多くのマンガファン・書店員から熱い支持を得ています。NHK『花は咲く』アニメ版でタッグを組んだ2人が再び結集し、新たな感動をお届けします。

「この映画が見たい」の声が生んだ、100年先に伝えたい珠玉のアニメーション

クラウドファンディングで3,374名のサポーターから39,121,920円の制作資金を集めた本作。日本全国からの「この映画が見たい」という声に支えられ完成した『この世界の片隅に』は、長く、深く、多くの人々の心に火を灯し続けることでしょう。100年先にも愛され続ける映画が、ここに誕生しました。



STORY

1944年(昭和19)年2月。18歳のすずは、突然の縁談で軍港の街・呉へとお嫁に行くことになる。新しい家族には、夫・周作、そして周作の両親や義姉・徑子、姪・晴美。配給物資がだんだん減っていく中でも、すずは工夫を凝らして食卓をにぎわせ、衣服を作り直し、時には好きな絵を描き、毎日のくらしを積み重ねていく。
1945(昭和20)年3月。呉は、空を埋め尽くすほどの艦載機による空襲にさらされ、すずが大切にしていたものが失われていく。それでも毎日は続く。
そして、昭和20年の夏がやってくる――。

のん

細谷佳正 稲葉菜月 尾身美詞

小野大輔 潘めぐみ 岩井七世 牛山茂 新谷真弓 / 澁谷天外(特別出演)
原作：この史代『この世界の片隅に』(双葉社刊) / 企画：丸山正雄
監督補・両面構成：浦谷千恵 キャラクターデザイン・作画監督：松原秀典 / 美術監督：林孝輔 / 音楽：コトリング
プロデューサー：真木太郎 / 監督・脚本：片渚須直
製作統括：GENCO / アニメーション制作：MAPPA / 配給：東京テアトル / 製作：「この世界の片隅に」製作委員会
助成：文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金

konosekai.jp @konosekai_movie @konosekai.movie

©この史代・双葉社 / 「この世界の片隅に」製作委員会

みんなの声が生んだ奇跡 映画公式HPには他にも多くのコメントを寄せていただいています(敬称略・順不同)

戦争という時代を懸命に、そして明るく生き抜いた一人の女性の物語。衝撃的なドラマでありながらも、全編から伝わってくる前向きな勇氣。世界が大きく変化していく今だからこそ観て欲しい……とても心魅かれた作品でした。

谷村新司(音楽家)

空の高さ、雲の大きさ。そして、音の力。長く伝わっていくことになるだろう名作。のん、以外考えられない適役。素晴らしい演技。

犬童一心(映画監督)

地上からの視点で描き続けて、貫いているところ。主人公のキャラクター、生き方ののんさんの声がとても合っていた。たましいが伝わり感じられる素晴らしいお仕事だと思いました。長く心に残る作品となりました。

茂木健一郎(脳科学者)

停電の夜に、ロウソクの灯りのもとで母が語ってくれるようなお話は、国の歴史というよりも親戚の家族史だ。歴史に翻弄された時代にあった一つ屋根の下の生活は、時間を超えて私たちの物語になる。

奈良美智(美術家)